

メールレター(32)

ドリトル先生のハッピーバースデー

こちらは残暑のころとなりました。日本よりはひと月早く夏が終わり、あっという間に冬になっていきます。季節の変化は毎年違い、季節の到来に心身が追いつけず、おたおたしてしまいます。

7月にマダム田中が、8月にドリトル先生が一つずつ歳をとり、それぞれ、後期高齢者の枠に近づくつつあります。健康にアクティブに優雅な晩年を暮らすには、毎日たくさんの努力をするものだ二人して感じております。ゆったりしているふりをしながら、水面下の鴨の脚のように必死で漕ぎまくって頭と体を動かしていないと、社会に適合できなくなり、美しくなくなってしまいそうです。これも辛いなあー。

ドリトル先生の誕生日は、長男夫婦と娘夫婦とドリトル先生夫婦の6人でシンプルに楽しく祝うことになりました。シャンペンで乾杯した後は、今回はテーブルについてゆっくりと食事でした。アントレ(前菜)はロブスター(前日に茹でました)、魚料理はチラシ寿司と天ぷら、メインは北京ダッグと豚の角煮に茄子と唐辛子(テラスで取れた新鮮なものです)の炒め煮を添えました。ワインは、今回は、料理がコロコロ変わるのでロゼにしました。シャンペンで続ける人もいました。

長男のパートナーはスポーツマン(ウーマンかな?)なのでアルコールはほどほど。この夕べは、全員がどちらかというペリグリノーのミネラルウォーターを飲む、健康的な飲み方でした。盛り上がってきた頃、ど田舎のフレデリクトンに住む次男からお祝いの電話が入り、会話が携帯を通して更に盛り上がっていきました。

Happy Birthday to you, Happy birthday to you 🎵🎶 誕生日おめでとう。電話の向こうから、賑やかなお祝いの歌声が聞こえてきます。

「ありがとう。皆、ありがとう。」

こちらは、皆でシャンペングラスを合わせて、もう一度お祝いです。

「パパ、いつ、こっちに来るの？ニワトリ小屋ができあがったんだよ。ほら、いつか言っただろう。ブルーの卵を産むニワトリを飼っているんだ。」

「ブルーの卵か、興味深々。」

「仲間の教授が本職並みにたくさんブルーの卵を産む鶏を飼っているんで、分けてもらったんだ。」

「君たちは、国のお金を使って森林の保護の研究をしないで、ブルーの卵で遊んでいるのか？レタスのつぎは卵か？」

「そういうわけでもないよ。ともかく早く来てよ。」

ここで次男を押しつけて孫たちが会話に加わってきます。魚を釣った話やら今着ているワンピースはピンクだのと、何を言っているのか、誰のお祝いなのかわからなくなってきました。

ほどほどにして携帯は切り、一息いれ、長男のパートナーとテニス話になりました。

先日、プライベートテニスクラブで行われた彼女の模範試合に招待され、戦いぶりを目にしてきました。このテニスクラブは典型的な、昔ながらの正統な英国風伝統を守り、上下白を着ていて、メンバーのマナーもさすがです。今時めずらしいことです。39歳の彼女の相手は19歳の若い可愛い女の子でした。いずれも選手権を勝ち抜いた経験を持ちます。長男のパートナーは、9-5時のフルタイムの仕事の後の試合なせいか、いつもほど力はでなかったようですが、彼女の實力と根性は垣間見た気がしました。

こうしたプロにもストレスはきつらしく、いつの間にか無くて七癖のような奇癖が身についてしまうようです。彼女はコートに入る前に、腕をぐるぐる前後に回すこと約5分。プロペラが縦に巻いているようです。

「君、あのぐるぐる巻きは何だったの？」

ドリトル先生は疑問に思っていたようです。

「私は、元々、水泳の選手。バタフライのような、ぐるぐる巻きでリラックスしているの。」

先日モンテリオールで行われていたロジャース杯で優勝したナダルをみていると、サービスをする時には、一打ちごとに、尻を触り、耳を触り、鼻をつまみ、シューズの左端を引き下げてからゆっくりとサービスを打ち込みます。セットの合間の休憩では飲んだ数本の空いたペットボトル何度も並び替えるのです。この日常的な癖を繰り返して心を落ち着かせるようです。これを、カメラは確実に捉えていくところが恐ろしい気がします。

楽しかったドリトル先生の誕生日のお祝いが終わり、蟻の一步でゆっくりとまた歳をとりつつあります。